

実施日：令和8年4月22日・5月20日

研究テーマ：専門的知識の向上を通じて学校事務職員の役割理解を深める



初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)【概要】

教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読者として、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生成AIの概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントなどをまとめたもの。

1. 生成AIについて

- 生成AIは画像・音声・文章だけでなく動画や音声等、異なる種類の情報をまとめて扱えるようになり、人間の対応と遜色ないスピードで応答できるようになっている。
- 学校現場においても、汎用的なサービスが利用可能なだけでなく、標準仕様のアプリや学習支援ソフトウェアにも組み込まれ、利活用の幅が広がっている。
- 新たな出力（レスポンス）を完全に防ぐことは難しくなっているため、学習過程・出力情報の信頼性・透明性の確保、大量のデータに基いた偏見や差別等のバイアスをそのまま再生成することなど、様々なリスクも指摘されている。一方で、これらのリスクを軽減する技術等も進展している。

生成AIの仕組み

学習・データ収集 → 学習・モデル構築 → 生成AIモデル → 生成・出力

2. 基本的な考え方

① 学校現場における人間中心の利活用

人間中心の役割

- 生成AIを人間の能力を補助・拡張し、可能性を広げられる有用な道具にのみ捉えるべきである。その上で、出力はあくまで「参考の一つである」とも認識するとともに、リスクや懸念を認識しつつ、最終は人間が判断し、責任を持つことが重要である。

児童生徒の学びと生成AI

- 学習指導要領に示す資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的達成を観点から効果的であるかを吟味した上で利活用するべきであり、生成AIを利活用することが目的ではない。

教員の役割と生成AI

- 指導計画や学習環境の設定、丁寧な指導や支援といった、学びの専門性としての教員の役割は、より重要なものになる。
- 生成AIの仕組みや特徴を理解するなど、教員には一定のAIリテラシーを身に付けることが求められる。

② 生成AIの存在を踏まえた情報活用能力の育成強化

学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力

- 学習指導要領では、「情報活用能力」は学習の基盤となる資質・能力として位置付け、情報を主体的に採集・活用すること、情報技術や学習や日常生活に活用できるようにするための重要性を強調している。
- 各学校においては、教科等横断的な観点からの教育課程の編成を通じて、各教科等の学習の過程における指導の中で情報活用能力を育成することが期待される。

情報活用能力の育成強化

- 生成AIの仕組みの理解、学びに主眼を置く点、近い将来生成AIに代わることになる力を、各教科等のなかにおいて意識的に育てていく姿勢は重要である。
- 生成AIが社会生活に組み込まれていくことを踏まえ、急速な情報等を踏まえて、情報リテラシー等の情報活用能力の育成を充実させていくことが必要である。

研究会の達成目標：

- ・生成 A I を活用するための、セキュリティやリテラシーについて理解する。
- ・生成 A I を具体的に活用するための方法を学ぶ。

活動内容

4月の研究会では、班別のグループワークを実施し、日頃の悩みや課題を共有するとともに、年間を通じて取り組みたい内容について模造紙と付箋を用いて意見を出し合った。

「最近困っていること」「課題に感じていること」「あれば解決につながりそうな知識」「今後学んでみたいこと」などについて、多くの参加者から具体的な要望や意見が挙げられた。これらの意見をもとに年間活動計画の方向性を整理し、今年度の取り組み内容について検討を行った。

5月の研究会は、前回出された意見を踏まえ、「生成 AI を活用してみよう！」をテーマにグループ交流を行った。

最初に、各自で視聴してきた「Microsoft365 Copilot 基礎 + 応用編」研修動画をもとに、A I 活用と個人情報の取り扱いについて共通理解した。次に「AI によって効率化できそうな業務は何か」という観点でディスカッションを行い、日常業務への活用可能性について考えた。そして、「実際にプロンプトを考えてみましょう！」というテーマのもと、具体的な課題を設定し、実際に Copilot へ入力して回答を得ながら、その活用方法や効果について検討を深めることができた。

今後の活動

教育課題グループと実務課題グループに分かれて、班別交流を行う。